

23/3/7（火）名古屋市議会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

渡辺義郎(自民・北区)：名古屋城というものの存在がいかに多くの市民の精神的支柱であることは、議場の皆さんにも賛同していただけるのではないのでしょうか。

名古屋城をあり日の姿に復元し、後世に至るまで、大切に大切に保存し続けることは、郷土愛を育み、名古屋市民であることの誇りを再認識させることに、大いに資するものではないかと思うわけであります。

そこで名古屋城天守閣木造復元について、お尋ねをいたします。

この事業はご承知のように、平成27年12月のプロポーザルに始まり、平成28年の1年を経て議論の末、議会も同意し、令和4年12月を完成期限とする計画でスタートしました。これは皆さんもご承知の通りであります。

しかし、今はすでに令和5年の3月であります。

この間、木材の製材工場をはじめ製材工場を契約し、概ねの木材は調達したものの、竣工期限を定めることができず1年ずつ延長され、年間約1億円の木材保管料が発生をしております。

事業は延々として進まず、プロポーザルから7年が経過した今も復元工事もおろか、解体工事の着手にも至ってはいません。

そこで市長から木造復元を推進する適任者とも専任理由の説明があった、この事業の責任者であります松雄副市長にお尋ねをいたします。

現天守閣の解体と木造復元を実現するには、文化庁から、現状変更許可を得る必要があります、その事前手続きとして、国の復元検討委員会で復元事業の妥当性の議論が必要となります。現在、そのための基本契約を取りまとめていると思いますが、課題であった石垣の保存、基礎構造、バリアフリーは、どのような内容にするのでしょうか。

また取りまとめに向けて今後、どのようなスケジュールで、有識者会議に臨まれるのか。木造復元は、市民の期待も大きく、本市のまちづくりにとって、重要ですので、取りまとめた基本契約を議会はもとより、できる限り多くの市民に説明し、理解を得ることが必要と考えますが、対応はどのようにされるのか。

木造復元の実現に向けた副市長の決意を含めて、この際お答えいただきたいと思っております。

松雄副市長：名古屋城天守閣木造復元について数点のお尋ねをいただきました。

始めに文化庁の現状変更許可を得るため、現在取りまとめ中の基本計画の内容についてでございます。

特別史跡名古屋城跡、木造天守整備基本計画の取りまとめの課題である石垣の保存基礎構造の検討には、天守台の石垣等遺構の状況を正確に把握する必要があることから、発掘調査等状況の把握に努めてまいりました。

その結果、戦後に積み直された天守台内部石垣は、本来の構造や安定性を有しておらず、

現天守閣と同様に、このままでは地震の際の安全性が担保できないことが、有識者の間で共通認識になりつつございます。

このため、石垣の積み直し、あるいは現代工法の負荷も視野に入れた石垣の修復整備を木造天守の復元と一体で検討する必要があるとございます。

しかしながら、現天守閣ある状態では、調査範囲は局所的にとどまらざるを得ないところでございます。

このため、基本計画には、現時点において実現可能と想定できる基礎構造の検討例をいくつか整理記載するにとどめ、現天守閣解体後に詳細な調査を実施し、その結果を踏まえ、具体的な基礎構造の手法と、天守閣、天守台内部石垣の修復整備工法合わせて、検討するという考えで臨みたいと考えております。

次に、バリアフリーにおきましては、昇降技術に関する公募を実施し、昨年12月に最優秀者を選定いたしました。

公募結果の公表後、市長や私のところには直接多数の市民から多くの資料が残っているため、木造復元するなら史実に忠実に復元し、将来の国宝を目指すべきという昇降技術の設置に反対する意見が寄せられる一方、市民の声の窓口には容認する意見も届いております。

歴史的建造物の復元とバリアフリーを巡る問題は、私が調べたところ、国において具体的な方針までは示されておらず、本市で判断するものとなっているところでございます。

このようなことから、可能な限り史実に忠実な木造復元に最大限の意を用いつつ、バリアフリーの考え方といたしましては、地上から小天守を経て、大天守地階まではスロープを設置の上、公募の最低要求水準である大天守1階への昇降は確保したいと考えております。

その上で、どうしたらより上層階へのバリアフリー対応が可能か、今後の昇降技術開発の動向等を踏まえて、引き続きしっかり検討してまいりたいと考えております。

また、令和5年度には、場内の見どころをバリアフリー化した園路で繋ぐ園路改修計画の策定に着手し、障害のある方もない方も、全ての来訪者がより快適に、特別史跡名古屋城跡に親しんでいただけるよう、名古屋城全体のバリアフリー化に取り組んでまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

いずれにいたしましても大変難しい問題でございますので、木造復元のバリアフリー化に関しましては、今一度、市民意見を聴取する機会を設けて、市民のご意見をお伺いしたいと考えており、その結果も踏まえて最終的には市長の判断を仰いでまいりたいと考えております。次に基本計画の取り纏めに向けましては、3月下旬の特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議に基本計画案を示していきたいと考えているところでございます。

また、議会の皆様はもとより、市民の皆様、経済界等からも大変大きな期待を寄せていただいておりますので、できるだけ多くの皆様にご説明しご理解を得た上で、文化庁に計画を提出してまいりたいと存じます。

最後に私の決意ということでございますが、思えば、私は観光文化交流局長のときに、石垣の調査分析が不十分な中で、天守閣解体選考の計画を出したことや、石列の毀損事故を起こ

し、特別施設の管理団体としての資質が厳しく問われる事態を招くなど苦しい時期が続き、議会の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

もしその都度、議会所管の経済水道委員会の皆様、とりわけ渡辺議員には、時には厳しいご指摘もいただきながら、様々なご議論、ご指導ご助言をいただき、

また所長以下名古屋城の職員も本当によく頑張っていたいただきましたので、ようやく基本計画を取りまとめる段階までこぎつけました。

いまだバリアフリーをはじめ様々な課題がございますが、市民の皆様、世界中の観光客の皆様喜んでいただくため、木造天守の復元が1日でも早く実現するよう、私の存在意義をかけ、自らの仕事の自分の仕事の集大成とする気概を持って、職員とともに全力で取り組んでまいり所存でございます。

以上でございます。

渡辺義郎(自民・北区)： それでは、要望と再質問をさせていただきます。

初めに、名古屋城天守閣木造復元について要望をさせていただきます。

以前から申し上げていますが、これほどの大事業は、当局だけでは決して済みません。文化庁には丁寧に説明や相談をして進めてもらいたいと思います。

また、天守の竣工までに様々な課題はあるでしょうが、石垣の保存、整備はもとより、二の丸庭園。金シャチ横丁の第2期整備。名城公園や堀川などの関連施設を並行して整備することで、世界に誇れる日本一の近世城郭を満たしていただきたいと。強い要望を申し上げておきます。